

M T E Xによるチタンの解析手順

極点図と逆極点図表示がポーラネット表示でない為
従来データと比較が難しい。
方位位置の数値化が望まれる。

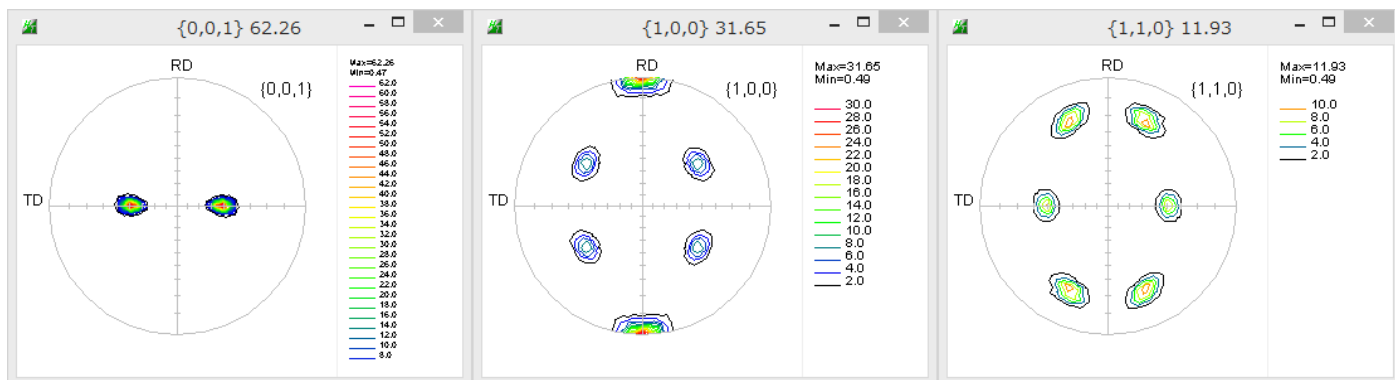
2018年02月06日

HelperTex Office

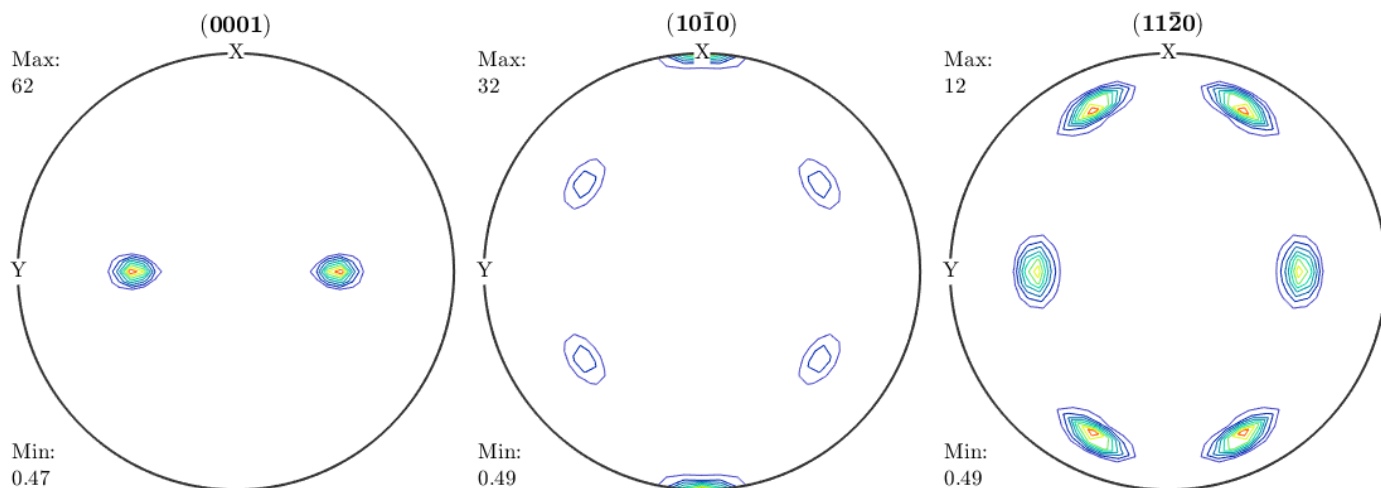
概要

立方晶に続き、Hexagonalの動作を確認する。

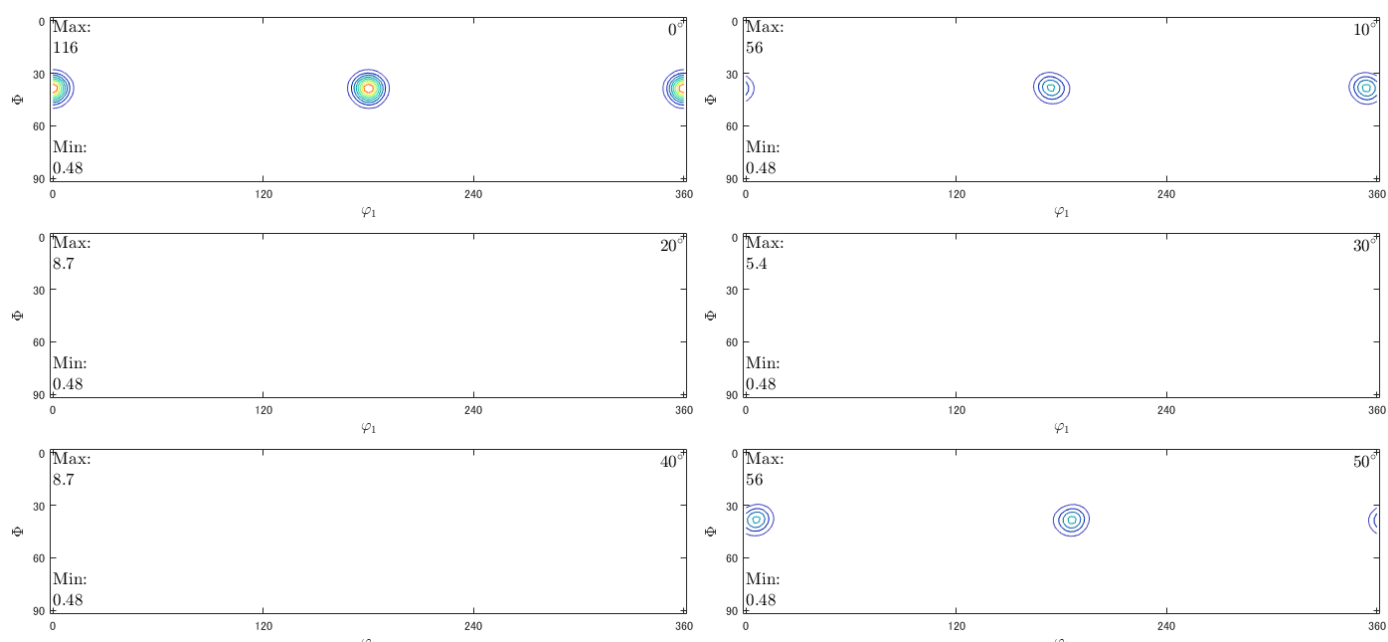
入力データ



MTEXで読み込み表示

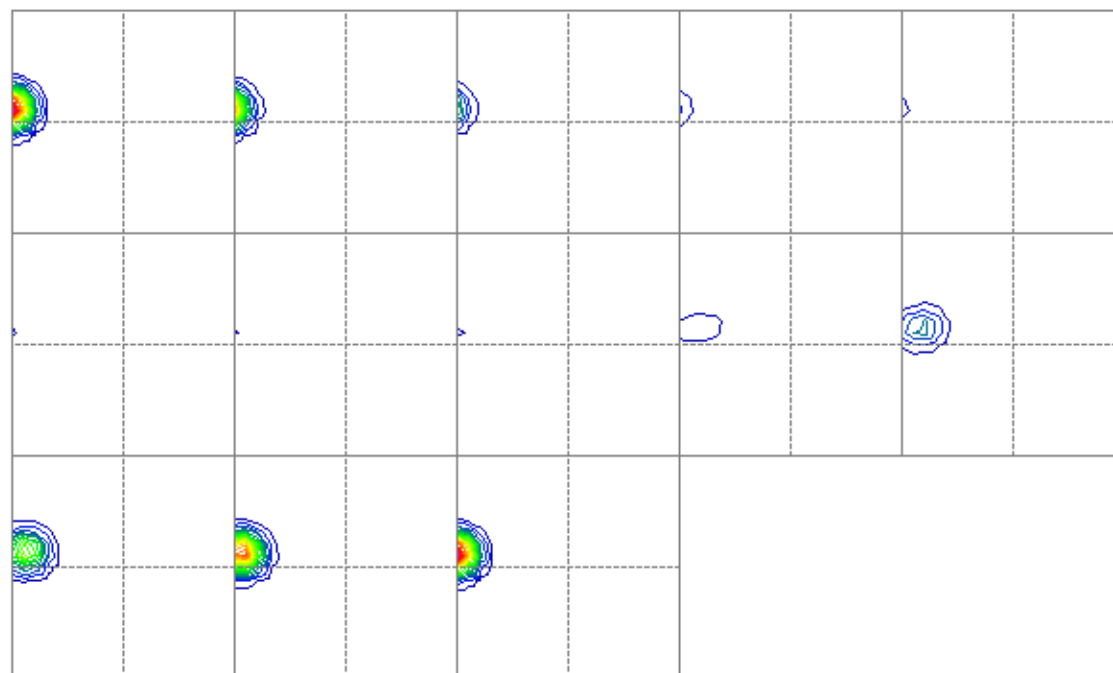


ODF図



ODF 図をExportし、Triclinic→Orthorhombicで表示

filename: C:\MTEx\TM114-1-10\hexaodf.txt



Max=114.25
Min=0.48

110.0
105.0
100.0
95.0
90.0
85.0
80.0
75.0
70.0
65.0
60.0
55.0
50.0
45.0
40.0
35.0
30.0
25.0
20.0
15.0
10.0

AType X=[2-1-10]

Bungeψ2section

0 90

ψ2=0->60

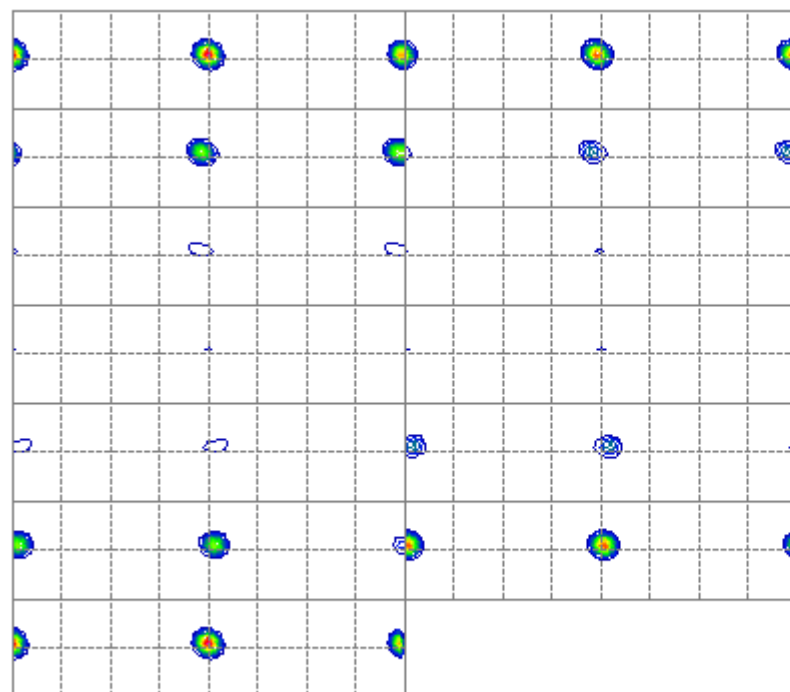
step=5.0

90

ψ

Triclinicのまま表示

filename: C:\MTEx\TM114-1-10\hexaodf.txt



Max=114.25
Min=0.48

110.0
105.0
100.0
95.0
90.0
85.0
80.0
75.0
70.0
65.0
60.0
55.0
50.0
45.0
40.0
35.0
30.0
25.0
20.0
15.0
10.0

AType X=[2-1-10]

Bungeψ2section

0 360

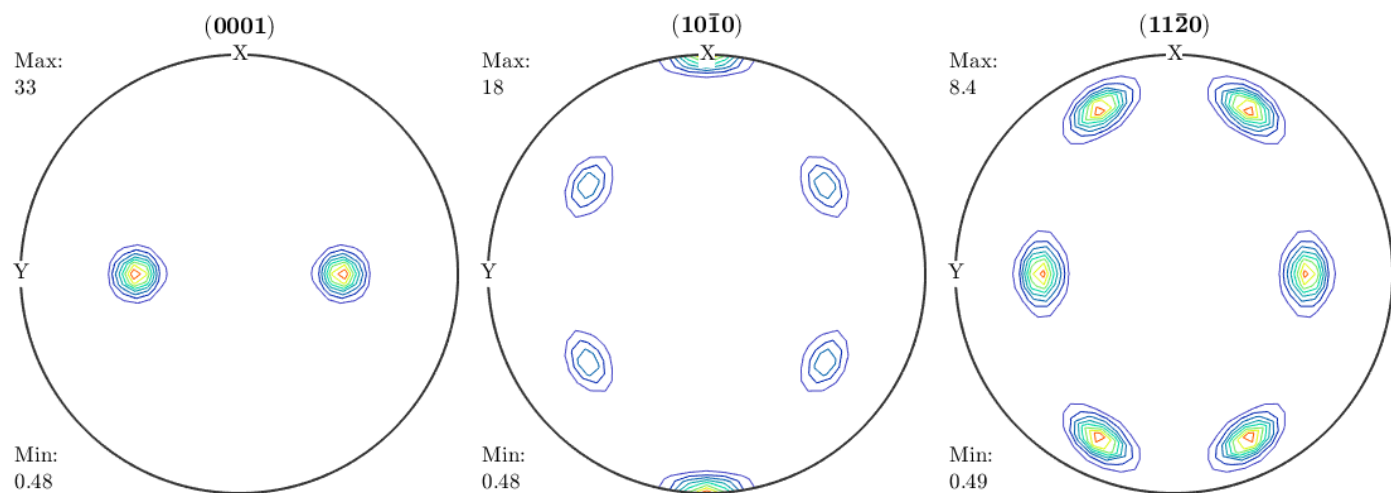
ψ2=0->60

step=5.0

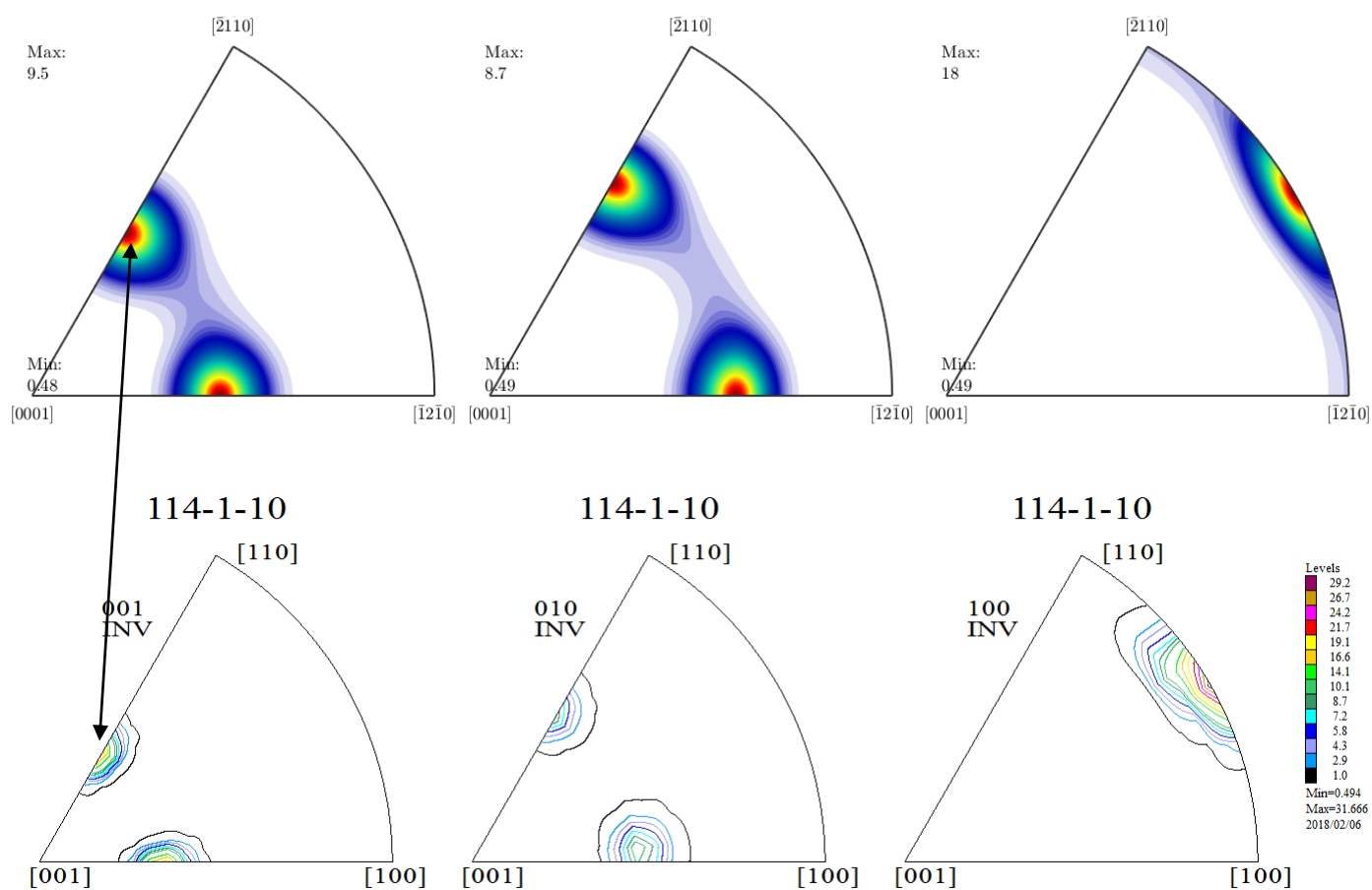
90

ψ

再計算極点図



逆極点図のL a b o T e xと比較



極点図や逆極点図の α 方向の間隔が異なる。

通常は、等面積（ポーラネット）で表示するが、MTEXは異なる。

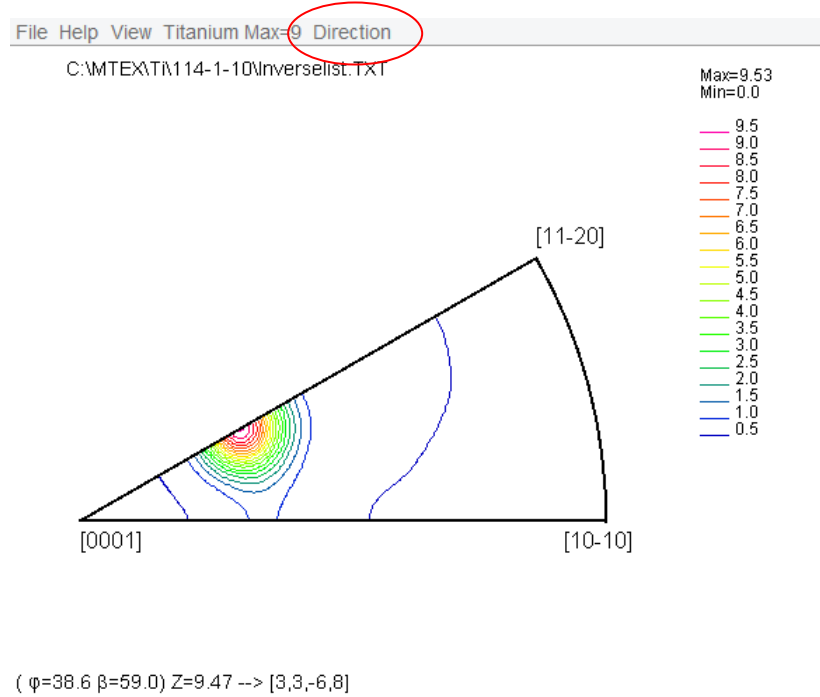
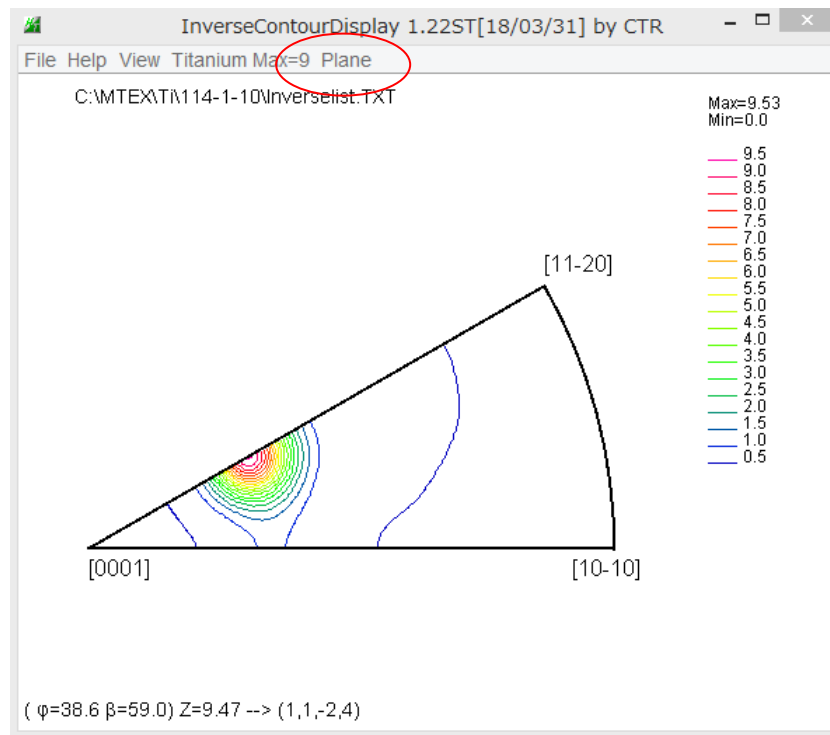
逆極点図の E x p o r t （ND方向を比較する）し方位計算を行う

E x p o r t される値は 5 5 5 1 データ

5548	0.4887
5549	0.4884
5550	0.4881
5551	0.4880

6 1 x 9 1 = 5 5 5 1 と考えられる。

Export し、Plane で計算すると（1 1－2 4）が得られる。



Direction では、[3 3－6 8]が得られる。